(仮称)千葉県立流山地区特別支援学校の設置に係る地域説明会 要旨

【日 時】令和7年7月1日(火)午後2時～2時55分

【場 所】流山市立南流山中学校第1体育館内

【参加者】地域住民・保護者等 計35人

【説明者】千葉県教育庁 6人

流山市教育委員会 10人

<説明会>

1 出席者紹介

2 挨拶 (1) 千葉県教育庁 特別支援教育課長より

(2) 流山市教育委員会 教育総務部長より

3 計画説明

千葉県から説明

※詳細については、別紙「(仮称)千葉県立流山地区特別支援学校の設置に係る地域説明会資料(令和7年7月1日実施)」を参照してください。

4 質疑 (参加者…地域住民・保護者等 県…千葉県 市…流山市)

(参加者)

特別支援学校の保護者等による登下校時の送迎の車両台数はどのくらいを想定しているか。交通渋滞の対策や駐車場の設置など検討しているのか。

(県)

特別支援学校の登下校時には、スクールバス、保護者送迎車両、放課後等デイサービスによる送迎車両等が運行します。スクールバスの運行台数については、現時点ではお示しできませんが、中型バスを5～6台程度、保護者送迎車両は20台程度、放課後等デイサービスの車両は40～50台程度を想定しています。

車両の出入口や駐車場の確保などについては、今後、設計にて検討を行っていきます。

(参加者)

南流山中学校の生徒数は今後も増加すると思われるが、小・中・高等部のある特別支援学校が敷地内に新たに設置されることにより、両校の児童、生徒が狭く窮屈な思いをすることはしないのか。

(市)

南流山中学校は普通学級として運用可能な教室数が42学級分整備しています。児童生徒数の推計及び想定値から、令和15年度が生徒数のピークと想定していますが、ピーク時の生徒数においても、運用可能な教室数42教室で、教室数が不足しないと試算しています。

(県)

第2グラウンド、第2体育館の使用については、中学校と共有する予定であり、時間帯をずらすなど、今後、市教育委員会及び南流山中学校と協議を行っていきます。なお、各面積については特別支援学校の設置基準を満たしているため問題はありません。

(参加者)

令和14年度開校ということだが、もう少し早めるよう要望する。

(参加者)

特別支援学校として利用する部分の土地建物の所有は千葉県と流山市のどちらになるのか。

(市)

1・2号館の建物及び土地については流山市の所有となります。賃貸借に係る契約方法等については、今後、県と協議していきます。

(参加者)

市内にある既存の2つの高等学校(特別支援学校流山高等学園、東葛の森特別支援学校)と今回新設する(仮称)千葉県立流山地区特別支援学校の高等部の違いは何か。

(県)

特別支援学校流山高等学園は専門学科となっています。入学選考を受検し、合格した方が入学の対象となります。

東葛の森特別支援学校と(仮称)千葉県立流山地区特別支援学校の異なる点は通学区域です。居住地がどちらの通学区域内にあるかにより、どちらに入学することになるかを決定します。

(参加者)

今回新設する特別支援学校に、同校の通学者のための学童クラブを併設する予定はあるか。放課後等デイサービスも入所数の増加に伴い、過密状況になっているようだが、誘致等を行う予定はないのか。

(県)

学童クラブの併設の予定はないため、放課後等デイサービスなどを利用していただくことになります。

(市)

市で設置している学童クラブは、市立小学校の小校区ごとに設置しており、当該市立小学校に通学している児童が入所の対象となっています。

放課後等デイサービス等の誘致等については、今後の状況を注視し、検討していきます。

(参加者)

現在、子どもが柏特別支援学校の小学部に通学している。現状では、将来、東葛の森特別支援学校に通学する予定だが、(仮称)千葉県立流山地区特別支援学校が開校した際には、転校することが可能か。

(県)

通学区域については、令和12年度に決定する予定となっており、お住いの通学区域により、どちらの特別支援学校に通学するかが決まります。

(参加者)

特別支援学校流山高等学園は受検し、合格した者が入学できるが、不合格であった場合、受け皿として、(仮称)千葉県立流山地区特別支援学校の高等部普通科に入学することはできるか。

(県)

受検の合否発表の後も、入学要件を満たしていれば入学することができます。

(参加者)

特別支援学校の生徒数が飽和状態であるとの説明があったが、定員に達している場合は入学できないのか。

(県)

特別支援学校の高等部普通科については定員がないため、入学することが可能です。入学する学校については、通学区域に該当する特別支援学校となります。

(参加者)

現在、子どもが小学校の特別支援学級に通っており、当該学校が開校された際には、中学校の特別支援学級に通っている予定であるが、当該特別支援学校に転入することは可能か。

(県)

市の教育委員会に相談した上で、中学校の特別支援学級から、県立特別支援学校の中学部に転入することは可能です。

(参加者)

当該特別支援学校が南流山中学校に併設された場合、南流山中学校の特別支援学級はどうなるのか。

(市)

特別支援学級については市が設置しているものになりますので、当該特別支援学校が開校した後も、変わりなく通学することができます。

(参加者)

南流山中学校の近隣に住んでいるが、自転車による通学が大変多い学校となっている。特別支援学校の設置により、バス通学や保護者による送迎等の車も増加することから、マルエツの交差点から、宮園幼稚園、坂川に至るまでの道路など、周辺道路のさらなる混雑等が予想される。当該特別支援学校と南流山中学校の出入口(校門)を分ける予定はあるか。また、お互いの登校時間が重複しないよう、時間帯を分ける予定はあるか。

(県)

基本的には、登下校時における特別支援学校の児童、生徒の動線と南流山中学校の生徒の動線は分けることを想定しています。ただし、現時点では詳細な計画はまだ決まっていないため、今後、中学校と協議をし、決定していきます。

(参加者)

当該特別支援学校は、開校まで約7年間かかるということだが、今後も複数回、説明会を実施していく予定はあるか。

(県)

今後の説明会の実施について、検討していきます。

(参加者)

南流山中学校の生徒だけでも、年々増加しており、登下校の安全については、地域住民で協力しながら見守っているところである。お互いの児童、生徒が安全に登下校できるよう、計画を進めていただきたい。